

展示 PICK UP

■2Fパープルゾーン【三角台】 ~2021/1/15(金)

スタッフおすすめ「これが好き!」



今年も図書フロアスタッフお勧めの本を推薦文とともに一挙に展示します。毎日たくさん本に接するスタッフが、出版年にこだわらず、各自の専線に触れた本をピックアップ。古い本でも内容はあせません。ぜひお立ち寄りください。



『分解してみました』
● トッド・マクレラン 著
● 金成 希 訳
● パインインターナショナル ● 2015年



『加々美高浩が全力で教える「手」の描き方』
● 加々美 高浩 著
● SBクリエイティブ ● 2019年

12月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン
『三島由紀夫 没後五十年』(～2021/3/12) NEW!
三島由紀夫が市ヶ谷駐屯地で最期を迎えてから五十年。今なお彼の作品は読み継がれています。彼をかたち作ったもの、彼が生み出したもの、そして後世に遺したものを通して、三島由紀夫の姿を追います。

2F パープルゾーン 三角台
『スタッフおすすめ「これが好き!」』(～2021/1/15) NEW!
今年も開催中! 図書フロアスタッフ一同より、皆さまにお勧めしたい本を集めました。各スタッフの思いがこもった推薦文もぜひご覧ください。

2F エレベーターホール
『これからの書店・図書館・出版社・取次』(～2021/2/28)

3F ブルーゾーン
『私的表現』(～2021/2/12)

3F エレベーターホール+ガラスケース
1階 特別展「荒俣宏の大大マンガラクト館」関連図書展示
『荒俣宏が描いた帝都・東京』(～12/25)

From Chiyoda Public Library 【千代田区立図書館からのお知らせ】

おとなも遊べる
少年文庫の世界

● 開催中～12月26日(土)
● 場 所: 千代田図書館9階 展示ウォール

岩波少年文庫を中心に、児童書の表紙とあらずし、その世界を彩る“さし絵”をパネルで紹介するとともに、約150冊の児童書と児童書関連本を展示・貸し出します。「ナルニア国ものがたり」「ドリトル先生」シリーズ、「長つ下のピッピー」3部作(岩波書店)など、いまでも読み継がれる児童書は、不思議な世界や冒険の旅へと誘ってくれます。少年少女時代に抱いたドキドキワクワク感を再び味わってみてはいかがでしょうか。



▶▶▶館内では常時マスクの着用をお願いいたします。入館の際は、手指消毒・検温・入館票をご記入ください。

■3F ブルーゾーン【アート・言語・文学】の本を集めたゾーン ~2021/2/12(金)

「私的表現」



SNSの普及により、今や個人が自らの情報を発信することは当たり前となり、現代人の「公」と「私」の境界線は曖昧になっています。そこで今回は「私的」というテーマのもと、作家や美術家の手紙・日記・自伝・セルフポートレートといった作品を「私的な表現」と捉えて注目し、内容ごとに分類して展示しています。



「手紙・日記」「自画像」など内容別に展示しています。



セルフポートレートや、家族が被写体の写真集を多く取り上げています。

■3F グリーンゾーン【哲学・歴史・自然科学】の本を集めたゾーン ~2021/1/15(金)

「解き明かされる不思議～未知から人知へ～」
おすすめの本3選

不思議を解き明かしてきた先人たちの歩みから、現代の様々な困難を乗り越える足掛かりを見つけ、またその人々や解き明かされたものに思いをはせる展示です。



『ホーキング、自らを語る』
● スティーヴン・ホーキング 著
● 池 央 訳
● 佐藤 勝彦 監修
● あすなる書房
● 2014年



『文字と組織の世界史』
● 鈴木 董 著
● 山川出版社
● 2018年



『動物たちのすごいワザを物理で解く』
● マティン・ドラニー 著
● リズ・カロウガー 著
● 吉田 三知世 訳
● インターシフト ● 2018年

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

【特別研究室】へのご案内

4階にある特別研究室は、館内でも特別な空間。1歩足を踏み入れれば、貴重な蔵書や空間が広がる別世界です。皆様を新たな発見と創造が生まれる世界へと誘います。

- 江戸時代～昭和戦前期に発行された約20,000冊の古書資料を所蔵
- 書庫を抜けた窓側の空間には、上質なデスクが並ぶ特別研究席(スタディールーム)を完備※
- 資料の魅力を定期的な企画展示で紹介

※有料(300円/2時間)となります。当面の間、ご利用は2時間まで。延長は出来ません。ご利用には千代田区立図書館の貸出券が必要です。

【開室時間】

- ◇ 平日 …… 午前10時～午後8時
- ◇ 土曜日 …… 午前10時～午後6時
- ◇ 日曜日・祝日 …… 午前10時～午後4時

◆ 企画展示 ◆

100年後も手に取れる本に
～内田嘉吉文庫修復報告2020～

◆ 開催中～12月28日(月曜日) ◆ 入場無料



◀ 修復された釘綴じの本: 『日本歴史図録上』(1918年)

2019年度、日比谷図書文化館特別研究室では内田嘉吉文庫をはじめとする特別研究室所蔵資料計15点の修復を行いました。そこで、修復報告の一環として、修復を終えた資料とその作業記録を公開します。今回は糸綴じのみならず、針金綴じ、釘綴じの資料の修復も行われ、材料や技法の創意工夫により、安心して手に取ることができるようになりました。活用と保存の両立のためにはどのような修復が必要か、実物と修復作業の記録パネルをご覧ください。

◆ 展示構成 ◆

- 『A New General Collection of Voyages and Travels 3』(1746年)
- 『A Description of Ceylon 2』(1807年)
- 『児玉総督後藤民政長官記念博物館写真帖』(1915年) ほか

calendar 開館時間: 平日10時～22時 ■ 土曜10時～19時 ■ 日祝10時～17時 ■ 休館日

2020年12月							2021年1月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	5						1	2
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	

● お問合せ先: 千代田区立日比谷図書文化館 〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4
TEL: 施設代表 03-3502-3340 図書総合カウンター 03-3502-3343
URL: https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

information

部分(図書フロア)休館のお知らせ
2021年1月16日(土)、17日(日)

図書の特別整理(蔵書点検)を実施するため、2・3階の図書フロア部分を臨時休館します。期間中は2・3階への立ち入りが出来ないため、図書の貸出・閲覧席の利用などができなくなります。本の返却は1階のエントランスおよび国会通り側ブックポストをご利用ください(一部資料を除く)。図書フロア以外の施設は通常通りにご利用いただけます。※2021年1月18日(月)は全館、休館日です。(文化財事務室は除く)

access 【都営地下鉄】●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
【東京メトロ】●丸ノ内線●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口徒歩3分
●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口徒歩3分 ●JR「新橋駅」徒歩10分
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

12・1月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

12/3 (木) 他 文豪たちの素顔 —明治の名作はいかに生み出されたのか? (全2回)

講師：堀 啓子 (東海大学 教授)

明治時代、「あの名作」を世に送った文豪たちはどのような人生を歩んだのでしょうか？ベストセラー『金色夜叉』を生んだ尾崎紅葉。その弟子で舞台作も人気の泉鏡花。王道の夏目漱石。日本にミステリーを広めた黒岩涙香。彼らの、教科書には載らない意外な実人生から、その創作の源泉を探っていきます。



『金色夜叉』
尾崎紅葉が書いた
明治時代の
代表的な小説

- 日時：第1回：12月3日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
尾崎紅葉と泉鏡花 — 美文家師弟の愛したモチーフ
- 第2回：12月17日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
夏目漱石vs黒岩涙香 — 作家と記者の新聞小説

- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：各回60名 ■ 参加費：各回1000円

※6月3日(水)、17日(水)の講座が延期されたものです。

12/9 (水) これからの書店 図書館 出版社 取次 新しい「本との出会い」をつくる

講師：富樫 建 (日本出版販売株式会社 取締役)

1万2千冊の本を備えたブックホテル「箱根本箱」と入場料制の六本木の書店「文喫」。新たな人と本との出会いの場を手掛ける日本出版販売株式会社は、取次として社会に本を届けるという役割を担いながら“文化を守り、つくる”ということを価値とし、さまざまな事業に挑戦しています。時代の移り変わりとともに本に求められるものも変化中、本の持つ価値を再定義するプロジェクトを通して見えてきたこと、本に関わる新たなビジネスの可能性などをうかがいます。



「箱根本箱」

- 日時：12月9日(水) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

12/11 (金) 映像で辿る、それぞれのルネサンス —レオナルド・ダ・ヴィンチ、パブロ・ピカソ、フリーダ・カーロ

講師：中村 宏美 (アートナビゲーター)

三人の画家が愛したルーツを解き明かす—。ダ・ヴィンチ、ピカソ、フリーダ・カーロ、それぞれの「ルネサンス」とは？来春公開の映画から美しい高精細映像で絵画をご覧くださいながら、一筆一筆に込めた想いと背景を辿る、美術の旅へご案内します。

(主催：株式会社ライブ・ビューイング・ジャパン、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：12月11日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名
- 参加費：1000円



1/14 (木) 日記のたのしみ

講師：内沼 晋太郎 (日記屋月日 店主)

日記を書きたい、と思ったことはあるでしょうか。続けられずに挫折した経験を持っている方も、きっと多いはず。一方、本の世界では最近になって、誰かの日記をまとめた本が多く出版され、よく読まれるようになってきました。日記を書くこと、読むことの楽しみについて、お話しします。

- 日時：1月14日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名
- 参加費：1000円



1/20 (水) 江戸歴史講座 第70回 江戸の寺社とパワースポット

講師：滝口 正哉 (立教大学文学部特任准教授)

人口100万人を超える大都市江戸は寺社の数も多く、現代よりも身近な存在でした。そして18世紀以降になると、さまざまな願いに対応する神仏が登場しました。今回は江戸の人々が信仰していた代表的な神仏を取り上げ、その独特な祈願方法や当時の時代背景、文化的な意義についてご紹介します。

- 日時：1月20日(水) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円(千代田区民 500円)



能勢の黒札

1/22 (金) これからの書店 図書館 出版社 取次 図書館をめぐる諸問題

講師：三田 誠広 (作家・日本文藝家協会副理事長)

図書館は国民の文化的水準の維持には欠かせないもので、同時に生きることの喜びをもたらす大事な場所でもあります。しかしながらベストセラー作品の複本がずらりと並んでいると、出版社や著作者の権利を侵害しているとも感じられます。図書館の本来の在り方や未来像について、作家の立場から語ってきたいと思います。

- 日時：1月22日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名
- 参加費：1000円 申込開始：12月8日(火)～



1/26 (火) これからの書店 図書館 出版社 取次 出版社と書店と図書館と、本を愛する人たちの明日

講師：小野寺 優 (株式会社河出書房新社 代表取締役社長)

「出版不況」は留まることを知らず、出版物の売上高も書店の数も減少し続けています。その一方で、このコロナ禍に町の書店には多くの人が訪れ、本を求めました。本と読者の出会い方、届け方に大きな変化が生まれつつある中、出版社の立場から「出版」というビジネスのこれからを探りつつ、出版社、書店、図書館一本と読者をつなぐ私たちがすべきこと、そして本を愛する私たちの未来について、皆さんとともに考えます。

- 日時：1月26日(火) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円 申込開始：12月8日(火)～



1/27 (水) 江戸歴史講座 第71回 芭蕉のことは遊び～しゃれを用いた句

講師：深沢 眞二 (連歌俳諧研究者)

日本古典文学を読む上で、「掛け言葉」「秀句」「しゃれ」などと呼ばれる、同音異義語を利用して詩歌が多重の意味を含むようにする技法の理解は重要である。見過ごされがちだが、芭蕉もそれをよく用いていた。芭蕉発句から「水とりや氷の僧の沓の音」ほかを取り上げ、新たな読み解きを試みる。

- 日時：1月27日(水) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名
- 参加費：1000円(千代田区民 500円)



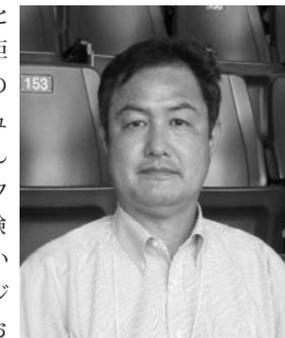
1/30 (土) 千代田区民講座 オリンピックと野球 ～チームマネジメント～

講師：杉浦 正則 (アトランタオリンピック銀メダリスト)

オリンピックで日の丸を背負うことを目標とし、プロ球団入りの話を拒み続け、社会人野球や日本代表のエースとして活躍し、「Mr.アマチュア野球」と呼ばれる杉浦正則さんに、野球競技におけるオリンピックの歴史、出場した3大会での経験談、そして東京オリンピックについて、チームスポーツやチームマネジメントとして大切なものについてお話しいただきます。

(主催：神田雑学大学、共催：日比谷図書文化館)

- 日時：1月30日(土) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：無料 ※11月20日(金)から千代田区民受付開始。区民以外は11月27日(金)から受付開始。



特別展 荒俣宏の 大大マンガラクタ館

12月16日(水) まで開催中!

〈マンガラクタ〉とは、マンガを含め、「だれかに発見されないかぎり、ずっとゴミくず同然に埋もれてしまう」ガラクタこそを面白がる、という価値観を示した荒俣氏が考えた造語です。今回の特別展では段ボールの中に入った荒俣氏のコレクションや創作物など荒俣氏自ら書き記したキャプションと共にご紹介しています。荒俣氏の人生と好奇心が広がるアラマタ・ワールドを是非ご覧ください。



【予告】特別展

複製芸術家 小村雪岱 ～装幀と挿絵に見る二つの精華～

小村雪岱(1887-1940)は、大正3年9月に文豪・泉鏡花が書き下ろした『日本橋』の装幀を手掛け、装幀家としてデビューします。以後、その独自の画風は「雪岱調」といわれ、挿絵画家としても活躍しました。本展では当時の雑誌や新聞をふんだんに展示した上で、複製芸術家としての雪岱の世界を堪能していただけます。(監修：真田幸治)

- 期間：2021年1月22日(金)～3月23日(火)
 - 場所：1階 特別展示室
- ※詳しくは、次号で紹介いたします。

Merry Christmas!!

2020年も残りわずかとなりました。今年は思いがけない出来事により、イベントなど中止や延期されるものが多くありました。しかし、クリスマスはサンタクロースが世界の子供達に「クリスマスは中止しない」と語っているように、今年も日比谷周辺ではクリスマスにあわせイルミネーションが輝いています。日比谷図書文化館でもクリスマスツリーを飾り、皆さまをお迎えます。近隣のイルミネーション情報と合わせ、ご覧ください。